

秋冬の天文現象

2014-9-20

京都市 福原浩一

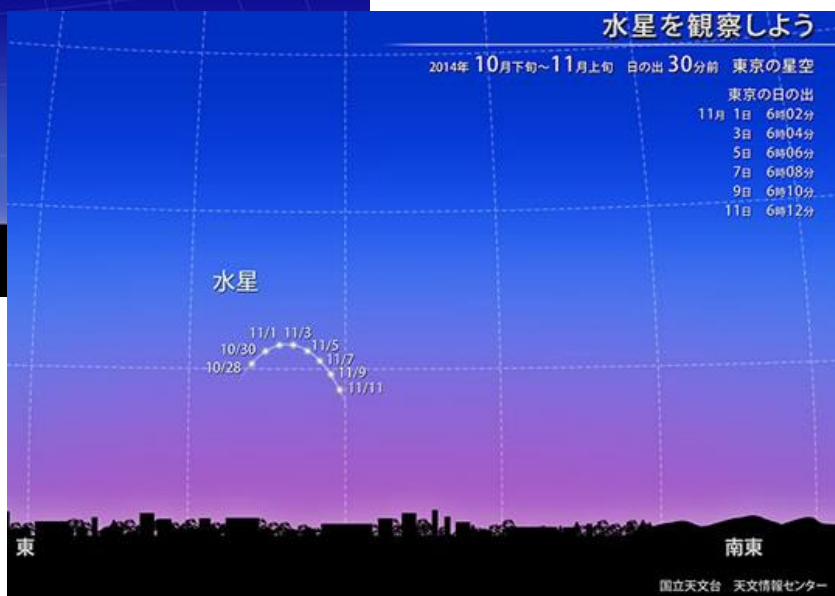
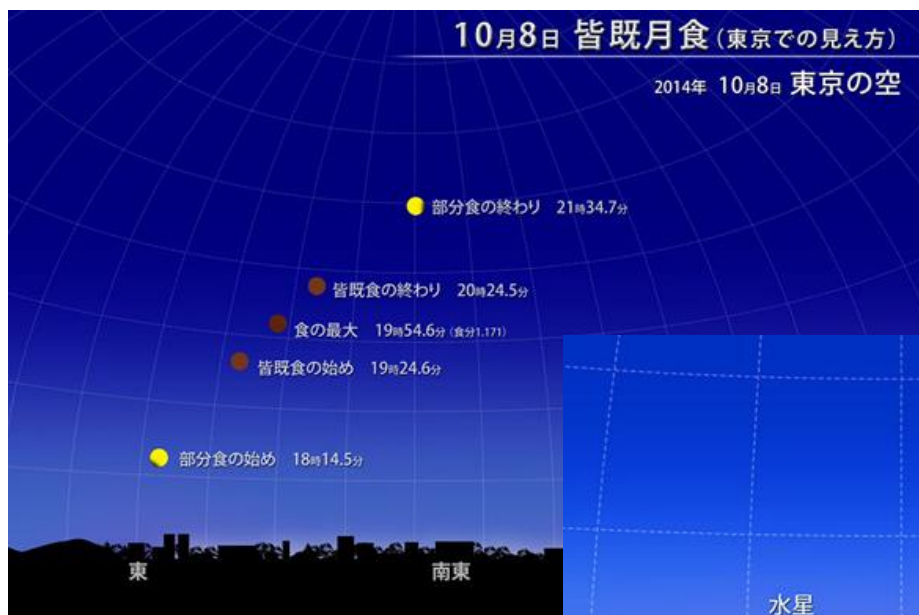
秋になりようやく天気が安定してきたかと思えば、台風シーズンに突入、今年は本当に異常気象で、澄み渡った星空は一体いつになったら観られるのでしょうか。

これから11月に四国カルスト遠征があるので、この秋冬の天文現象をざっと拾ってみました。

◆10月8日の皆既月食

月食の始まりが18時14分頃で、月食の終わりが21時34分頃です。

東の空から月が昇り、少しすると欠け始めて、皆既食となるのは19時24分、それから19時54分に最大の食となり、20時24分には皆既食が終わり徐々に月が姿を現します。その後、21時34分にショーが終わります。



◆11月1日 水星 最大離角

1日に西方最大離角を迎えます。そのため、月初から10日頃までは水星の高度が高くなり、観察の好機となります。

日の出の1時間から30分くらい前の、空があまり明るくならないうちに、東の空が開けた場所で、地平線近くを探してみよう。(双眼鏡などで観察できます。)

(国立天文台HPより図を転載)

◆11月17~18日の しし座流星群

高速で印象的な流星が見られます。2~3日間は出現数もあまり変わりません。今年は明け方に細い月が上ってくる程度で、条件としては良好。母天体が遠日点付近まで遠ざかっているため、今年は5~10個/時程度の出現と言われています。

◆12月13日~15日の ふたご座流星群

最大の出現を見せる流星群。ピークは日本時刻の21時頃で、14/15日は一晩中多くの流星が期待できます。また、ふたご座流星群の明るい流星のピークは全体のピークから半日近く遅れるので、14/15日は明け方に向けて明るい流星がすこしずつ増加します。近年は明るい流星が増えているようで、写真写りも良さそう。ただ下弦の月明かりが少し邪魔をしそう。